

質問；準備投球は何球ですか。

回答；準備投球のルールは次のようになっていますが、2015年のルール改正により、その一部が改正されました。

準備投球の基本的なルール…

- ①初回と投手が交代したときは1分間を限度とし5球以内で、次回からは3球以内
- ②同一イニング中に、いったん交代した投手が再び投手に戻るときは、準備投球は認められない。

【参考】

①の部分ですが、多くの試合では審判員は時間の計測は行わず、投球数のみを示しています。これは試合がスムーズに行われることを前提としたものです。また、準備投球は5球なり、3球、必ずできるというものではないことも理解しておいてください。

後記【2015年のルール改正内容】をご参照ください。

また、準備投球は5球なり3球必ず行わなければならないというものではありません。ルールは「…以内」です。このルールは投手の特典みたいなものであり、その日の調子によっては1球で終わってもペナルティはありません。だらだらと準備投球するよりはいいですね。

但し、審判員は、そのことによって打者が不利にならないように留意しなければならないことは言うまでもありません。また、試合の進行状況、天候等によっては、審判員の指示で準備投球数を3球なり1球に減らす場合もあり、ルールで認められています。

【注意しなければならないこと】

通常、投手は、球審が「ラストボール」等のコールに合わせて最後の1球を投げ準備投球を終了します。仮に規定投球数を超えると、1球毎に「ボール」がカウントされます。特に同一イニングの再登板(②の場合)の際は要注意です。

【2015年のルール改正内容】

「試合のスピードアップ」を促す観点から、次のようにルールが改正されました。

前記の①に次のルールが追加されましたので注意が必要です。

初回と投手が交代したとき以外の準備投球で1分を超えたとき、または超えそうなとき、審判員は「残り1球」と制限することができる。 ※「ラストボール」とコールされることもあります。

(注)

攻守交替のとき、捕手の準備が遅れ、また、その間に代わりに準備投球を受ける者がいない状態で準備投球が行えず、1分間を超過しそうなときも、審判員は「残り1球」と制限することができる。

※1分間の計測開始はどの時点かな？

県協会の伝達研修会では、「三死が成立した時点」ということです。攻守交代は「駆け足」で行いましょう。